



福祉むらやま

第76号 平成25年10月1日号

編集と発行

社会福祉法人 村山市社会福祉協議会

電話 52-0321 FAX 55-7470

「村山市豪雨災害ボランティアセンター」

7月24日(水)～8月9日(金)の17日間

救援

飲料水の寄附 ペットボトル5,600本!

「断水で困っている方に配ってほしい」「3.11の時に村山市の皆さんに支援をいただいたので恩返しをしたい」「困ったときはお互い様です」と、たくさんの方から飲料水やエコトレ 4,800 個の寄附をいただきました。

公益社団法人村山青年会議所(松岡豊理事長)、ボランティアサポート村山(三浦聡代表)、みどりの会(カーターみどり代表)などボランティア延べ50名が、ひとり暮らしや高齢者世帯890箇所へペットボトル飲料水などの宅配を行いました。呼びかけから数時間で集合し、手際よく活動していただきました。

迅速なボランティアの支援に感謝

災害ボランティアセンター開設

7月の断続的な豪雨により、管内への水道水が供給停止され、ほぼ市内全域において断水が発生しました。

7月24日、村山市社会福祉協議会では、「村山市豪雨災害ボランティアセンター」を設置し、ボランティアによる飲料水の配布を行いました。

ひとり暮らし高齢者へ「飲料水」を宅配
— ボランティア50名が温かい支援 —

感謝しています！命の水

私が一人で暮らしていただけるのも地域の皆さんのおかげ。断水の時には、外に出れば地域の方から「大丈夫だが?」、民生委員さんは「洗濯の水プールから持って来る?」と訪問に、ボランティアの方がお水を届けて下さったりと、本当に「ありがたい」の一言でした。これからも水を大切にしようと思います。

佐藤 きよ子さん(楯岡)

近隣同志できめ細かな支援

民生委員やいきいきネットワーク推進員・協力員が、高齢者宅を訪問し、断水や給水車についての情報提供や給水所に行けない高齢者への水の汲み置き支援をしました。

災害時は、近隣の助け合いが大切になります。ご協力をいただいた多くの皆様、ありがとうございました。



この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分金で作成しています



「顔見知り」になろう！

高齢化や核家族化が進み、地域の高齢者や障がい者、子育て中の親などが地域の中で孤立しているケースが増えています。

「いいきいきネットワーク」とは…

地域のみなさんが、あいさつや気軽な声かけなどを通して「顔見知り」になることで、お互いに助け合う関係やしきみをつくっていく活動です。

7月の断水時にも、「大丈夫？」「何か困ったことがあったら言ってみてね」などの声かけや、ペットボトルを持つての訪問なども自主的に行われている地区もありました。人と人との絆が、「安心して暮らせるまち」をつくっています。

ひろげよう
見守り 声かけ

の輪

応援しています！いいきいきネットワーク



民生委員
風間 満明さん

さきの断水時には、いいきいきネットワークの推進員はじめ、協力員の皆さんの活動には感心いたしました。ある方は、「遠くの親戚より近くの他人」というのを本当に実感しました、と。別の方は「皆さんの親切に何度も涙を流しました」と感謝しておりました。お二方とも、「この親切にどう恩返しをしたら良いか」とおっしゃっていました。が、そのお気持ちと元気でいて下さることが何よりの恩返しだと思っています。



住み慣れた地域で集える場所

▼サロンとは？

自宅から歩いて行ける場所に気軽に集い、みんなで活動内容を企画し、お茶のみやおしゃべり等、ふれあいを通して生きがいづくり・仲間づくりの輪を広げる活動です。

村山市では、現在44団体がサロンを開催しています。

▼活動内容は？

お茶のみや体操、昼食会や敬老会、クリスマス会などの行事や、年1回福祉バスを利用した視察研修に出掛けることもあります。その他に、健康講座や落語、三味線、昔語りなど地域の講師の方を招いたり、地元の子供たちを招待したりと互いに知恵を出し合い、工夫した楽しい活動をしています。

生きがい。

仲間づくりで

介護予防

また、サロンは交流の場としてだけでなく、介護予防や見守り活動など、「顔の見える関係づくり」ができ、地域の絆の再構築に大きな役割を果たしています。

応援しています！ふれあい・いいきいきサロン



赤松ヨエノさん(左)
// シ ツさん
(楯岡)

「皆の顔見できた」と嬉しそうに話すおばあちゃん。毎週、サロンの日を楽しみにして忘れていたことはありません。96歳の今も歩いて公民館へ行っています。雨の日は家族で送り迎えをしたり、これから家族として応援していきたいです。



ほっこり
むらやま

◆新たな取り組み
街なかサロンは、商店街に高齢者の方などが気軽にお茶を飲んだり、休憩できるような憩いの場を提供し、閉じこもり予防や生きがいづくりの一環として取り組んでいます。加盟店の店先には「ほっこりむらやま」のステッカーを目印に、休憩できるベンチが設置されています。



第三次

地域福祉

活動計画を

策定中です。

じぶんの町を
よくするしくみ

社会福祉協議会は、「誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくり」を使命として経済的困窮や低所得問題、虐待や悪質商法などの権利擁護など、地域における生活課題の深刻化といった地域福祉の課題を受け、その解決に向けた取り組みを進めております。

今年度、第3次の計画を策定するに当たり、これまでの取り組みを振り返り、地域のみなさんの声を聞きながら新たな地域福祉活動やサービスを検討します。ご理解とご協力をお願いします。

参加者の声

- ・園児や高齢者と触れ合えて楽しかった。
- ・「ありがと」と言われて嬉しかった。
- ・高齢になっても良いところがたくさんあると知った。
- ・これからの進路に活かしていきたい。

1日目は社協職員による「福祉の仕事」についての講座、「認知症サポーター養成講座」、「ワークシヨック」、2・3日目は介護施設や保育園でのボランティア体験を行いました。

8月5・6・7日の3日間開催されたこの講座には、市内の中高生17名の参加がありました。



夏休み
ボランティア
体験講座

お知らせ！

— インフォメーション —

◆今年も実施します。

協力企業によるボランティア事業として、低所得世帯の家屋補修や一人暮らし高齢者・高齢者世帯・障がい者世帯・母子父子家庭等の粗大ゴミ等収集を行います。

お困りの方はいませんか？
社会福祉協議会もしくは各地区担当民生委員へご相談ください。

「救急安心カード」

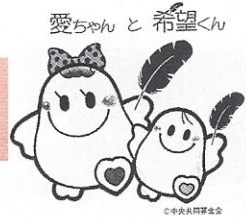
◆まだまだ受付中！

あらかじめ「かかりつけ医」や「持病」などの医療情報を専用の容器に入れ、冷蔵庫に保管しておくことで、救急車を呼ぶ時などの緊急時にその情報を活かします。



「家屋補修」
「粗大ゴミ等収集」

赤い羽根共同募金運動が 全国一斉にはじまります



■ 実施期間：10月1日～12月31日

■ 目標額：一世帯あたり 600 円を目標にご協力をお願いします



※ なぜ募金なのに目標額があるの？

赤い羽根教共同募金は、配分計画に基づく計画募金です。
事前に福祉団体や施設からの申請を受け、必要性・緊急性を精査し、あらかじめ事業推進に必要な額の計画をたて、これを目標とします。
ここから、市町村毎に一世帯あたり必要最小限の目標額を割り出してご協力をお願いするものです。
あくまでも募金ですので強制ではなく、任意のものです。

■ 募金の使いみち：皆様からお寄せいただいた H24 年度の募金による県からの配分金 (4,129,647 円) は、H25 年度に村山市でのさまざまな福祉活動に役立っています。

・ ふれあい・いきいきサロン事業の推進 950,000 円	◆	・ 老人クラブ活動事業 150,000 円
・ いきいきネットワーク推進事業 487,959 円	◆	・ 広報啓発事業 300,000 円
・ 街なかサロン事業 300,000 円	◆	・ 非常用発電機配備事業 157,000 円
・ 心配ごと相談所の開設 120,000 円	◆	・ 障がい者小規模作業所支援事業 100,000 円
・ 福祉むらやまなど広報紙の発行 280,000 円	◆	・ 障がい者団体支援 80,000 円
・ 地域ごとの福祉活動の推進 1,307,000 円	◆	・ 低所得要援護世帯の家屋補修事業 54,688 円

本誌に関する、ご意見・お問い合わせはこちらまで

社会福祉法人 村山市社会福祉協議会

〒995-0035 村山市中央 1-5-24

TEL (0237) 52-0321 FAX (0237) 55-7470

Eメール murayamasi-syakyo@themis.ocn.ne.jp

最新情報は ホームページ でもご覧いただけます

アドレスはこちら↓↓

<http://www1.ocn.ne.jp/~m-syakyo/>

地域福祉を通じての心温まるお話などもお待ちしております

◆社協までの地図◆

